

# 横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた 金沢区アクションプラン

～誰もが、いつまでも、どんなときも、自分らしくいられる金沢区を目指して～



令和4年3月  
金沢区

# 目 次

はじめに	1
これまでの取組について	2
《COLUMN》横浜型地域包括ケアシステム ～住み慣れた地域で暮らし続けるために～	4
《COLUMN》他分野の計画との関係性	5
金沢区アクションプラン	6
① 健康づくり・介護予防の推進	6
《COLUMN》元気づくりステーション	7
《COLUMN》金沢区元気づくりマイスター	7
② 多様な主体による生活支援の充実	8
《COLUMN》住民主体の支え合い活動『通所型サービスB』	9
《COLUMN》移動販売	9
③ 医療・介護連携の推進	10
《COLUMN》アドバンス・ケアプランニング(ACP) 医療・ケアについての「もしも手帳」 救急あんしんカード	11
④ 認知症支援の充実・強化	12
《COLUMN》キャラバン・メイト、認知症サポーター	13
《COLUMN》認知症カフェ	14
《COLUMN》SOS ネットワーク	14
⑤ その他	15
《COLUMN》外出によらないコミュニケーション機会の創出	16
《COLUMN》“地域ケア会議”により明らかにされた地域課題	16

## はじめに

金沢区ではこれまで、平成30年3月に策定した「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた金沢区行動指針」に沿って、様々な取組を進めてきました。

このたび令和3年3月に「第8期よこはま地域包括ケア計画」が策定されたことを受け、これまでの取組の振返りを踏まえたうえで、団塊の世代が後期高齢者となる2025年(令和7年)までに地域包括ケアシステムの構築を確実なものとするため、行動指針を改定し、区域における関係者間で目標を共有できるよう具体的な取組や目標値を盛り込んだ「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた金沢区アクションプラン」を策定しました。

### ◆「よこはま地域包括ケア計画」と区アクションプランの関係

「高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」は、市町村に義務付けられた、高齢者に関する保健福祉事業や介護保険制度の総合的な計画です。また、「認知症施策推進計画」は、令和元年6月に国がまとめた認知症施策推進大綱に基づいて、横浜市が独自に策定するものです。横浜市では、これら3つの計画をあわせて『よこはま地域包括ケア計画』として策定しています。

市内各区の行動指針は、区の方針や重点取組などを示すために平成29年度に作成され、『よこはま地域包括ケア計画』を補足するものとして位置付けられています。

第8期よこはま地域包括ケア計画(令和3年度～令和5年度)をふまえ、区行動指針の名称を「区アクションプラン」へ変更するとともに、地域包括ケアシステム構築に向け、2025年度(令和7年度)までの具体的な取組や目標値を盛り込んだ内容に改定しています。

### ◆「ポジティブ・エイジング」とは

第8期よこはま地域包括ケア計画 基本目標

#### ポジティブ・エイジング

～誰もが、いつまでも、どんなときも、自分らしくいられる  
「横浜型地域包括ケアシステム」を社会全体で紡ぐ～



誰もが歳を重ねる中で、積極的に活力ある高齢社会を作りたい、人生経験が豊かであることを積極的に捉え、高齢者を尊重し、その人らしい尊厳をいつまでも保てることができる地域を目指したい、という思いを「ポジティブ・エイジング」に込めています。

「ポジティブ・エイジング」は心身の状態が変化したとしても、地域の助け合いや専門職によるケアにより、高齢者がみずからの意思で自分らしく生きることができるよう、一人ひとりの「生活の質(QOL ※Quality Of Life)の向上」につなげていくことを目指しています。

#### ～各取組の「目標値」について～

地域包括ケアシステムの構築に向け、その進捗状況を確認するための目安として、各取組における目標値を設定しました。

目標値の設定には18区共通の目標値と、区独自に設定した目標値があります。区独自の目標値については、各目標値の項目欄に「★」を付けています。

## これまでの取組について

(平成30年3月策定「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた金沢区行動指針」振返り)

### 平成30年3月「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた金沢区行動指針」策定

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けるための「地域包括ケアシステム」の構築に向けて、金沢区がどのような方向性をもって地域や関係機関・団体等と目標を共有し、着実に取組を進めていくか、その考え方をとりまとめ、策定しました。

#### <重点的な取組>

- 1 健康づくり・介護予防
- 2 多様な主体による生活支援の充実
- 3 在宅医療・介護連携
- 4 認知症対策



### 重点的な取組1 健康づくり・介護予防

#### 主な取組・成果

- ・ 身近な場所での健康づくりや介護予防の場が増え、仲間づくりにもつながりました。  
元気づくりステーション(介護予防自主グループ)  
認知症予防自主グループ  
ケアプラザの体操教室・出張講座  
地域でのウォーキング事業
- ・ ボランティアや地域活動に参加するためのきっかけとなる講座や研修会が行われています。

#### 課題

- ・ より身近な場所で機会が得られるための活動の立ち上げや取組の支援
- ・ 地域活動の担い手不足

### 重点的な取組2 生活支援の充実

#### 主な取組・成果

- ・ 身近な場所でのサロンやサークル等の居場所が増え、緩やかな見守り、支え合いの場が拡充されました。
- ・ ちょっとした生活の困りごとを地域の住民がボランティアとして支援する取組が行われています。
- ・ 補助制度や多様な主体の協議の場から新たな社会資源が生まれました。  
地域のお茶の間／サービスB／移動販売

#### 課題

- ・ より身近な場所で機会が得られるための活動の立ち上げや取組の支援
- ・ 地域活動の担い手不足

### 重点的な取組3 在宅医療・介護連携

#### 主な取組・成果

- ・ 研修や連絡会などにより、医療と介護関係者の顔の見える関係づくりが進みました  
金沢区在宅医療・介護関係団体・機関連絡会／事例検討会／かなざわ在ネット  
多職種による在宅チームを担う人材育成研修／金沢区医療・福祉合同研修
- ・ 連携促進のための職種間の情報共有ツールが作成されました。  
連携ハンドブックかなざわ／看取り期の在宅療養サポートマップ
- ・ これからの人生に備えて考えるための啓発が進められました。  
エンディングノート／もしも手帳／アドバンス・ケア・プランニング

#### 課題

連携を促す機会の継続／在宅医療やこれからの人生を考える機会の拡充

### 重点的な取組4 認知症対策

#### 主な取組・成果

- ・ 認知症サポーターを中心に、啓発の機会が区域全体で展開されました。  
認知症サポーター養成講座を地域・学校・企業・警察等で実施  
認知症キャラバンメイト(サポーター講座の講師)の連携促進を支援
- ・ 認知症初期集中支援チームや早期発見モデル事業等による早期診断・早期発見の体制づくりを推進しました。

#### 課題

- ・ 早期支援につなげるための相談体制等の幅広い世代への周知、啓発
- ・ キャラバンメイトの連携の促進

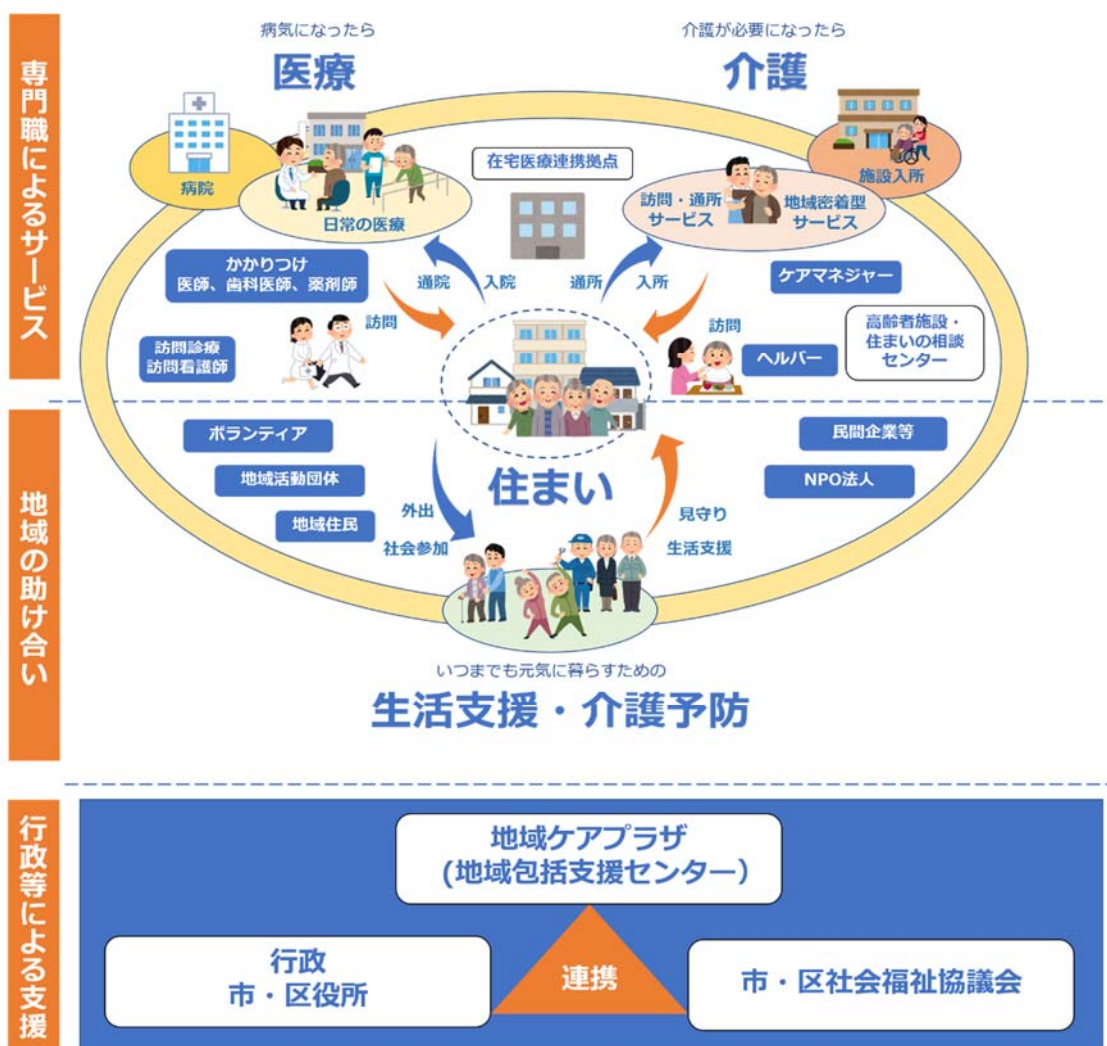
### 新たな課題

- ・ 社会的孤立や SOS を出しにくい方を支える体制づくり  
8050 問題、介護者、セルフネグレクト、虐待、身寄りのない方等への理解・対応
- ・ コロナ禍による新たな生活様式を踏まえた取組の検討  
地域活動の休止／フレイルの進行／在宅サービス調整の困難さ  
SNS やインターネット等への関心の高まり

## 《COLUMN》 横浜型地域包括ケアシステム ～住み慣れた地域で暮らし続けるために～

高齢者が可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう「医療・介護・介護予防・生活支援・住まい」が一体的に提供される包括的な支援・サービスの提供体制のことを地域包括ケアシステムといいます。

横浜市では、地域ケアプラザを中心に日常生活圏域ごとに進めています。

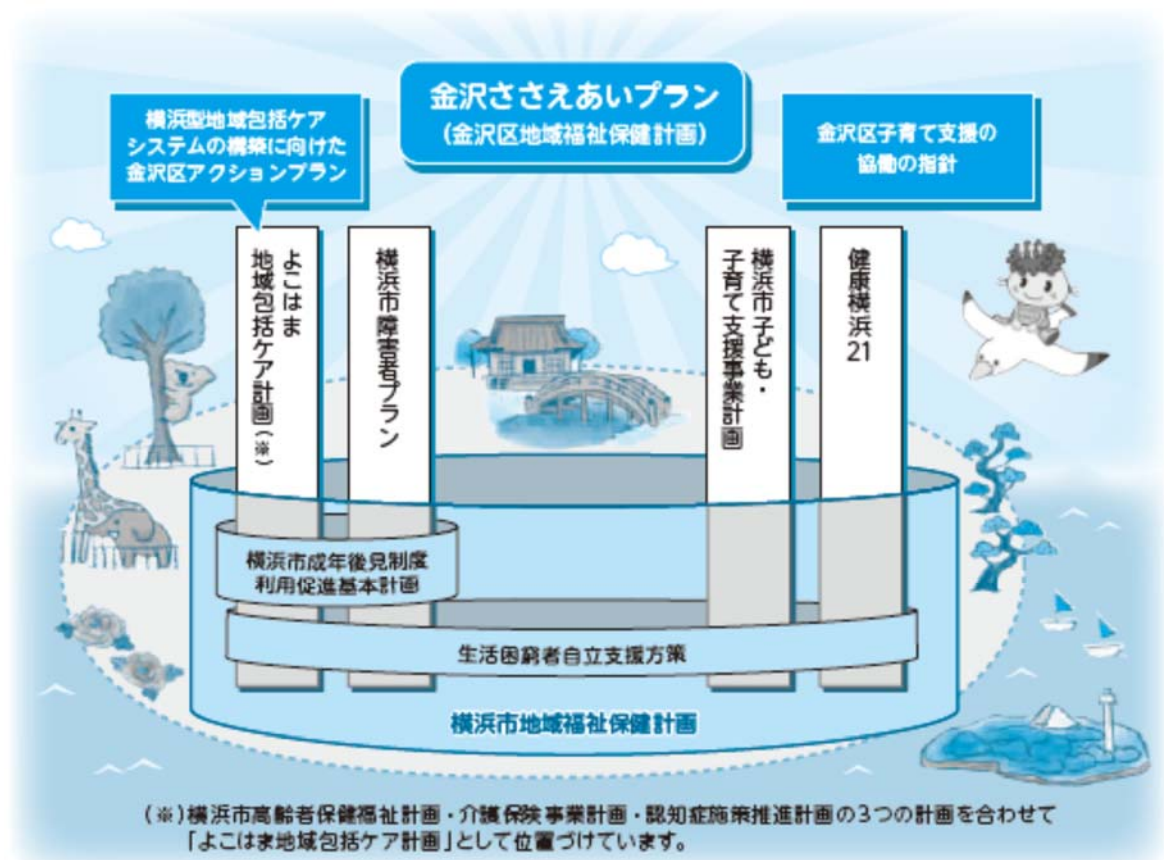


(「第8期よこはま地域包括ケア計画」より)

## 《COLUMN》他分野の計画との関係性

横浜市では高齢者・障害者・子ども・保健分野で法律を根拠とした分野別計画を策定しています。

各分野別計画の方向性を捉え、横断的な仕組みづくりの役割を果たす「横浜市地域福祉保健計画」を素地として、「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた金沢区アクションプラン」では、「よこはま包括ケア計画」をベースに、金沢区における地域包括ケアシステムを確実に実現していくための行動計画を示しています。



(「第4期金沢区地域福祉保健計画」より)

# 金沢区アクションプラン

## ① 健康づくり・介護予防の推進

### 【目標】

- 継続的に健康づくりや介護予防に取り組むことができる。
- 様々な介護予防の活動グループが地域にあり、それを推進する人材が地域の中で活躍している。
- 健康づくりや介護予防について、正しい知識を得る機会が充実している。

### 【目標値】

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
元気づくりステーションの健康講座開催数★ (回)	1	5	5	5	5	5
健康づくり係と連携した講座の開催数★ (回)	1	1	2	2	3	3
《目標値の説明》 個別の元気づくりステーションにおいて開催する講座の各年度実績						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
通いの場の参加人数 (人)	3,365	3,360	3,500	3,600	3,750	3,900
参加率 (%)	5.67%	5.70%	5.90%	6.10%	6.30%	6.50%
元気づくりマイスター養成数★(人)	34	51	51	60	60	70
《目標値の説明》 通いの場の参加人数・参加率は各年度地域支援事業実績 ※参加率=1回あたりの平均参加者数/各年度3月末時点の65歳以上人口 元気づくりマイスター養成数は令和2年度からの累計養成者数						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
普及啓発講座等参加者数★(人)	215	220	250	280	310	350
《目標値の説明》 区及び地域ケアプラザ主催の介護予防事業各年度参加者数						

### 【施策の方向性】

健康づくりや介護予防に取り組むことができるよう、個々の健康状態、関心に応じて参加できる通いの場が充実した地域づくりを推進します。また、一人ひとりが生きがいや役割を持って多様な社会参加をすることで、健康づくりや介護予防が推進できるよう、普及啓発や人材の育成を進めます。

### 【事業内容】

#### (1) 介護予防の普及啓発

- 地域特性に応じて、フレイル予防、ロコモ予防、口腔機能の向上、栄養改善、認知症予防、閉じこもり予防等の効果的な普及啓発を地域ケアプラザ等と連携して行います。
- 感染症等の状況下においては、高齢者の閉じこもりや生活不活発病が増大することが懸念されるため、健康を維持するために必要な情報を多様な手法で発信します。
- 社会参加が健康づくり・介護予防につながることを幅広く周知します。



## (2) 地域介護予防活動の推進

### (ア) 介護予防に資する通いの場の充実

- 地域の関係者や地域ケアプラザの専門職と連携し、身近な地域における多様な通いの場の充実を図ります。
- 元気づくりステーションのグループ活動を広げるとともに、グループ間の繋がりづくりや介護予防に関する情報の発信等、活動継続に向けたモチベーション向上を図ります。
- 地域で介護予防を推進する人材(金沢区元気づくりマイスター等)の発掘・育成及び支援に取り組みます。

### (イ) 通いの場等へのつながり支援

- 通いの場等の活動に参加しなくなった高齢者の把握に努め、適切な支援につなげます。
- 人や活動につながっていない高齢者を、地域の関係者や地域ケアプラザと連携して把握し、地域の活動等につなげられるよう支援します。

## (3) 健康づくり・介護予防の連携強化

- 各種統計データや地域資源情報等を活用して地域診断を行い、地域の健康課題を整理し、地域特性を踏まえた介護予防事業を検討します。
- 若い世代からの健康づくりの取組が将来の介護予防につながるため、健康づくり係と連携し、栄養改善やオーラルフレイルの普及啓発を進めます。

### 《COLUMN》 元気づくりステーション

住民と横浜市が協働し、介護予防活動の核として自主的に活動しているグループです。

地域ケアプラザや自治会町内会館、公園等の身近な地域の様々な場所で、体操、筋トレ、ウォーキング、コグニサイズ、スリーA、健康マージャンなど多様な活動を行い、参加者の交流を図っています。

(「第8期よこはま地域包括ケア計画」より)



### 《COLUMN》 金沢区元気づくりマイスター

介護予防活動グループの育成・活性化に向けた金沢区独自の取組として、令和2年度から、介護予防ボランティア「金沢区元気づくりマイスター」を養成しています。地域の介護予防活動に主体的に取り組みたい方が区主催の養成講座を受講後、金沢区元気づくりマイスターとして活躍されています。



## ② 多様な主体による生活支援の充実

### 【目標】

- 自分でできることは自分でいながら住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、支援を要する高齢者への様々な主体による生活支援の機会がある。
- 地域活動の周知が進み、新たな活動創出・活動継続が行われている。

### 【目標値】

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
住民主体の地域の活動把握数 (団体)	— (※)	584	593	600	609	614
住民主体の地域の活動把握数のうち、交流・居場所の数 (団体)	— (※)	509	515	521	529	533
≪目標値の説明≫ 「ヨコハマ地域活動・サービス検索ナビ」の各年度末公表団体数						

(※)現状値は未公表のため記載しません。

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
要支援者にも配慮した住民主体の支え合い活動の数 (サービスB) (団体)	3	3	5	5	7	7
≪目標値の説明≫ 各年度サービスB補助金交付団体数						

### 【施策の方向性】

住み慣れた地域で、高齢者が生きがいや役割をもち、自分らしく暮らし続けることができるよう、多様な主体による生活支援を広げていきます。

支援が必要な方を見守り、必要に応じて声をかけ支援機関につなげるなど、地域の中でお互いを尊重し支え合える地域づくりを進めます。

### 【事業内容】

#### (1) 住民主体の地域の活動支援

- 区と区社協、地域ケアプラザの生活支援コーディネーター等が連携し、地域と課題を共有し、住民主体の活動の創出や継続を支援します。
- 「新たな生活様式」を踏まえ、感染防止対策やICTを活用した活動の支援を行います。

#### (2) 要支援者にも配慮した住民主体の支え合い活動支援

- 補助金を活用し、交流、居場所、訪問、配食、見守りなどの要支援者等にも配慮した住民主体の支え合い活動を支援します。

【横浜市介護予防・生活支援サービス補助事業(サービスB)】

### (3) 移動支援、買い物支援

○坂が多く交通の便が悪いなど、高齢者の外出が困難な地域において、日常的な移動や買い物を支援する仕組みを検討、推進します。

### (4) 見守り、支え合いの地域づくり

○様々な機関、団体等と連携し、地域で困りごとを抱えている人の早期発見や、支援につなげるための見守りの仕組みづくりを推進します。

○高齢者に社会参加の機会を提供するなど、高齢者自身ができることをできる範囲で、互いに助け合い、支え合いながら生きがいや役割をもっていきいきと生活できる地域づくりを支援します。

## 《COLUMN》 住民主体の支え合い活動「通所型サービス B」

「通所型サービス B」は、支援が必要な高齢者(※)を対象に、地域全体で高齢者の生活を支えるとともに、高齢者自身が能力を最大限に発揮して、その人らしい暮らしを維持していくための取組です。

金沢区内には、令和4年3月現在、住民主体のボランティア等が中心となって3つの団体が活動しています。定期的に通い、居場所や介護予防プログラムに参加することで、心身の健康維持や向上仲間づくり、社会参加につながっています。



たけのこ会 レクリエーションの様子

#### ※ 事業対象者

○要支援1・2の認定を受けた方

○要支援相当で、基本チェックリストの結果、対象者と判断された方

★いずれも利用にはケアプランへの位置づけが必要

## 《COLUMN》 移動販売

店舗が少ない、坂が多い等の理由で買物が困難という地域で、民間の進出の期待できない地区の地域課題を解決するため、地域ケアプラザ、区社協、区役所と複数事業者による話し合いを経て、令和2年2月に釜利谷地区西金沢ルート、同年3月には富岡第一地区・第三地区ルートの移動販売が、セブーンイレブンの協力のもと開始されました。次いで令和3年7月、野島・乙舩地区ではユニオンセンターによる移動販売も開始。移動販売を行うことで、外出機会を創出し、地域での新たなコミュニティの形成や緩やかな見守りにつながっています。



今後とも、買い物支援や移動支援に取り組んでいきます。

### ③ 医療・介護連携の推進

#### 【目標】

- 医師会、歯科医師会、薬剤師会、医療・介護関連事業者、医療機関、在宅医療連携拠点、地域ケアプラザ、区役所がより緊密に連携し、医療と介護が切れ目ない連携体制を構築する。
- 在宅医療の普及啓発により、区民に在宅医療についての適切な情報や知識を伝えることができる人材が増える。
- 市民一人ひとりが自らの意思で自身の生き方を選択したうえで、その内容や思いを他者へ伝える手段がある。
- 区民の身近な場でACP※の普及啓発が行われ、ACP※に取り組む機会の提供ができています。

※ACP＝アドバンス・ケア・プランニング(p.11 コラム参照)

#### 【目標値】

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
在宅医療連携拠点等との多職種連携事業実施回数★（回）	15	15	16	16	16	16
≪目標値の説明≫ 各年度事業実施回数(在宅医療・介護連携事務局会議、区医療・福祉合同研修、在宅医療・介護関係団体・機関連絡会、区在宅医療相談室運営委員会 等)						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
「在宅におけるチーム医療を担う人材育成研修」受講者（人）	243	236	250	250	250	250
≪目標値の説明≫ 各年度研修参加者数						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
エンディングノートの配布部数★（冊）	1672	1800	2000	2000	2000	2000
≪目標値の説明≫ 区民、関係機関への各年度配布数(各地域ケアプラザ、区役所窓口での配布、講演会・講座等での配布。)						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
もしも手帳の配布部数★（部）	323	350	500	600	600	600
≪目標値の説明≫ 区民、関係機関への各年度配布数。令和4年度以降、ケアマネジャーによる介護保険サービス利用者への配布を開始予定。						

#### 【施策の方向性】

高齢者が安心して住み慣れた地域で生活できるように、在宅医療相談室と協力し、関係機関と連携できる体制の構築と、人材の育成等を推進します。

また、人生最期の医療や介護についての意思決定ができるように、区民の方に対して普及・啓発を進めます。

## 【事業内容】

### (1) 医療・介護連携の強化

- 医療と介護が切れ目なく提供されるように、関係機関と現状・課題を共有し、課題解決に向けて研修等を開催します。
- 医療・介護が必要な場面に応じ、必要な情報をスムーズに共有するためのツールを活用します。

### (2) 意思決定の支援・啓発

- 区民の方が身近なところでこれまでの人生を振り返ったり、今後の過ごし方について話し合ったりすることができるよう、金沢区版エンディングノート「これから」を配布し、講演会等で普及啓発を進めていきます。
- 「もしも手帳」を配布し、人生の最終段階での医療・ケアについて、区民の方が元気なうちから考え、希望を意思表示できるよう支援します。
- アドバンス・ケア・プランニング(ACP)に関する基本的な知識や考え方を正しく理解した人材を育成します。

## 《COLUMN》

### アドバンス・ケア・プランニング(ACP)

自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、家族や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組のことです。愛称は「人生会議」です。（「第8期よこはま地域包括ケア計画」より）



### 医療・ケアについての『もしも手帳』



人生の最終段階での医療やケアについて、元気なうちから考えるきっかけや、本人の考えを家族等と話す際の手助けとなるよう、市民の皆様には「もしも手帳」を配布しています。  
“治療やケアの希望”“代理者の希望”“最期を迎える場所の希望”についてチェックする形式の簡単な内容です。



元気なときこそ、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、家族等の信頼のおける人と繰り返し話し合い、共有してみましょう。

（「第8期よこはま地域包括ケア計画」より）



### 救急あんしんカード

氏名や生年月日、血液型、かかりつけの病院などを書いておくカードです。あらかじめ記入したカードを身の回りに用意しておけば、緊急時に 119 番通報し、駆けつけた救急隊員へ情報を伝える場合に、あわてずスムーズに行うことができます。

また、外出時に携行していれば、外出先の知らない場所でも、助けてくれる周囲の人や駆けつけた救急隊員に、持病や緊急連絡先を知らせることができます。



#### ④ 認知症支援の充実・強化

##### 【目標】

- 認知症に関する正しい知識・理解の普及・啓発が推進されている。
- 認知症を早期に発見し、当事者や家族が認知症の初期段階から相談できる環境が整っている。
- 認知症の人の居場所や見守り体制が充実している。

##### 【目標値】

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
認知症サポーター養成数(人)	802	850	1050	1250	1450	1650
《目標値の説明》 各年度のサポーター養成実績						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
認知症初期集中支援チームの支援件数(新規) (件)	11	12	18	24	30	36
前年度からの支援件数★(件)	4	4	4	4	4	4
支援件数合計★ (件)	15	16	22	28	34	40
《目標値の説明》 新規支援件数は各年度実績報告値						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
認知症 SOS ネットワーク登録者数 (人)	148	160	170	180	190	200
《目標値の説明》 全登録者数(実績報告値)						

項目	現状値	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
認知症カフェ数 (カ所)	7	7	8	9	10	11
《目標値の説明》 認知症カフェ一覧掲載の区内全カフェ数						

##### 【施策の方向性】

認知症の人やその家族が地域の中で自分らしく暮らし続けられるよう、認知症に関する正しい知識の普及を進め、認知症への社会の理解を深めます。また、認知症の人や家族が社会から孤立せず、社会とのつながりを持ち続けられるような取組を推進します。

本人や家族、周囲が認知症を疑ったときには、速やかに気づき、早期に適切な医療・介護につなげることにより、本人・家族がこれからの生活に備えることのできる環境を整えます。また、支援者の対応力の向上を図ります。

認知症の人が安全に外出できる地域の見守り体制づくりを進めます。

## 【事業内容】

### (1) 認知症に関する理解促進

- 講師役であるキャラバン・メイトの活動の充実を図ることにより、認知症サポーターの養成を引き続き推進します。
- 世界アルツハイマー月間等の機会を捉えて認知症に関する普及・啓発イベントを開催します。

### (2) 認知症の早期対応や相談支援の充実

- 区福祉保健センターや地域包括支援センターは、認知症に関する高齢者や家族の相談を受けて、適切な支援・調整を行います。
- 認知症初期集中支援チームを活用し、早期診断・早期対応に向けた支援を行います。

### (3) 本人や家族の居場所の拡大

- 認知症の本人、家族、地域の人等、誰もが気軽に参加でき、居心地がよく安心できる場を日常生活圏域ごとに作ります。
- 認知症になってもこれまでの地域との関係が保たれ、住民同士の支え合いができるように後方支援を行います。

### (4) 認知症の人の行方不明時における早期発見等の取組の充実

- 認知症の人が安全に外出できる地域の見守り体制づくりを進めます。また、行方不明になった際に早期発見・保護ができるよう、SOSネットワークの取組を推進します。
- 協力機関との連絡会等を通じて、発見協力機関との連携を強化します。

## 《COLUMN》 キャラバン・メイト、認知症サポーター

「キャラバン・メイト」とは、認知症についての正しい知識と具体的な対応方法を市民に伝えることを目的に「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を務めるボランティアです。キャラバン・メイトになるためには、所定のキャラバン・メイト養成研修の受講・登録が必要です。

キャラバン・メイトが開催する「認知症サポーター養成講座」を受講した人は「**認知症サポーター**」となります。認知症サポーターは、認知症を正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かく見守る応援者として、自分のできる範囲で活動します。友人や家族に学んだ知識を伝えること、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。



## 《COLUMN》 認知症カフェ

認知症の人やその家族、地域住民、医療や福祉などの専門職など誰でも気軽に集まれる場所です。

横浜市内には 100 か所を超える認知症カフェがあります。

また、認知症カフェが居心地の良い安心できる場所だと感じていただけるように、認知症カフェの運営者向け交流会を開催しています。

Q 認知症カフェの参加者は何を目的に集まっているの？

A 「同じ立場の人と話をしてみたい」、「利用できる制度の情報が欲しい」など、一人ひとりが違った目的で利用しています。

Q 認知症カフェではどのようなことをしているの？

A 茶話会やミニ講座、健康体操など場所によって様々な取組をしています。

Q 認知症カフェはどこで開催されているの？

A 地域ケアプラザや医療機関、介護施設などで開催されています。  
市内の「認知症カフェの一覧」は、横浜市ホームページをご覧ください。

(「第8期よこはま地域包括ケア計画」より)

## 《COLUMN》 SOSネットワーク

認知症は誰もがなりうるものであり、金沢区では、認知症の人も住み慣れた地域の中で尊厳を保ちながら、自分らしく暮らし続けることができる地域の実現を目指しています。

認知症になっても地域で安心して生活できるよう、行方不明時に早期発見・安全確保を目指した企業・警察・区役所の連携の仕組みに、「金沢区認知症高齢者等SOSネットワーク事業」があります。事前登録した行方不明者の連絡がご家族から警察に入ると、区役所を経て区内 59 か所の発見協力機関(交通機関、介護事業所、郵便局等)に行方不明者本人の情報が届きます。発見協力機関は通常業務の中で、発見・保護に協力いただいています。(令和3年8月現在)





## ⑤ その他

### 【旧指針の振り返りによる新たな課題】

- 社会的孤立や SOS を出しにくい方を支える体制づくり
- コロナ禍による新たな生活様式を踏まえた取組の検討

### 【施策の方向性】

高齢化に伴い、体力や認知力が低下することにより自宅に引きこもりがちとなり、生活のあらゆる面で手助けが必要になっているにもかかわらず、助けを求めることができない方が増えています。

身寄りのない一人暮らしの方に限らず、介護力の低下などの問題を抱えたご家族、介護と子育て双方を担っているダブルケア、孫世代などが介護を担うヤングケアラーの問題など、地域の中で孤立しがちな方々の状況に気づき、ゆるやかな見守りを行いつつ、支援機関に適宜情報提供していただくことができる地域づくりが重要です。

またいわゆる 8050・7040 問題など、多くの課題を抱える方を支えていくためには、支援機関側の適時適切な連携が必要不可欠です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、区民の地域生活にも大きく影を落としました。

感染症対策のため地域で行われてきた様々な地域活動なども休止を余儀なくされた結果、区民の社会活動が制限され、外出頻度が減り、コミュニティの存続が危うくなるとともに、地域で暮らす高齢者の体力・認知力の低下を招いています。

新型コロナウイルス感染症の収束に目処がつかないなか、「感染症対策と地域活動を両立するため、新たな生活様式を踏まえた試みが始まっています。

### 【事業内容】

#### (1) 各種支援機関との連携

○福祉保健課や生活支援課、同課生活困窮者支援担当など区内各課間での連携を始め、区社協や地域ケアプラザ、介護サービス事業所などの高齢者支援機関、基幹相談支援センターや精神障害者生活支援センターなどの障害者支援機関、各種医療機関など、あらゆる支援機関との連携を深め、必要な方に必要な支援を提供できるよう、体制を整えます。

#### (2) 見守り、支え合いの地域づくり(再掲)

○様々な機関、団体等と連携し、地域で困りごとを抱えている人の早期発見や、支援につなげるための見守りの仕組みづくりを推進します。

#### (3) 感染症対策と地域活動の両立に向けて

○活動の際に講ずるべき感染症対策について、助言を行うなど必要な支援を行います。

○実際に顔を合わせることなくコミュニケーションがとれる、ICTを活用した活動について、地域の要望に合わせた導入支援を推進します。

## 〈COLUMN〉

### 外出によらないコミュニケーション機会の創出

コロナ禍で活動ができていない、あるいは活動が縮小している団体の支援を目的に、Zoom を用いた活動支援、ICT 活用講座を実施しました。

講座の実施結果を踏まえ、地域で活動されている方々が、ICTを導入するための手引きやその参考動画を作成し、今後の地域での活動支援に結び付けていきます。



## 〈COLUMN〉 “地域ケア会議”により明らかにされた地域課題

“地域ケア会議”とは、地域で暮らす高齢者が、介護等が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるために、地域の支えあいについて関係者同士で話し合う会議です。会議には本人や家族、医療・福祉関係者、地域住民等様々な人が参加しています。

地域ケア会議には個別ケース→包括レベル→区レベル→市レベルの4つの会議があり、個別課題から地域課題を明らかにし、包括圏域や区レベル、市レベルでの課題解決を目指すものです。

これまで金沢区の包括レベル地域ケア会議で取り上げられた地域課題をいくつかご紹介します。

- 平成 30 年度
  - ・地域の見守り体制 ・多職種間の相互理解と支援方法
- 令和元年度
  - ・8050問題 ・高齢者ドライバー ・独居で身寄りのない高齢者の支援
  - ・金沢区の防災(台風災害時の振返り)
- 令和2年度
  - ・孤立死防止について ・身寄りのない方の身元保証
  - ・コロナ禍におけるひきこもり
- 令和3年度
  - ・コロナ禍での介護予防や社会参加について

今後も地域ケア会議を通して、高齢者を支える体制が充実し、安心して暮らせる地域づくりを目指していきます。







横浜市金沢区役所高齢・障害支援課  
〒236-0021横浜市金沢区泥亀二丁目9番1号  
TEL:045-788-7777  
FAX:045-786-8872  
令和4年3月発行